

すこやか 3月号

SANDA CITY HOSPITAL PRESS SUKOYAKA

特集
FEATURE

内視鏡下甲状腺手術の導入について



耳鼻いんこう科 部長

長谷川 稔文

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医
- 日本気管食道科学会専門医
- 日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医
- 日本がん治療認定医
- 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医

甲状腺とは

甲状腺は、甲状腺ホルモンを分泌する小さな臓器で、「のどぼとけ」の下にあります。甲状腺疾患は、「働き」の変化を示す疾患と「形」の変化を示す疾患に分かれます。「働き」の変化を示す疾患には、慢性甲状腺炎（橋本病）やバセドウ病があります。「形」の変化を示す疾患は、甲状腺腫瘍が代表疾患です。甲状腺腫瘍には、良性腫瘍と悪性腫瘍（癌）があります。これらのうちバセドウ病と甲状腺腫瘍では、手術が行われることがあります。

手術方法について

従来の手術では、首元に8～15cm程度の傷が残ります（図1）。甲状腺疾患は、女性が罹患することが多いため、美容上切実な問題です。そこで、目立ちにくい場所から手術を行う内視鏡下甲状腺手術が考案されました。内視鏡下甲状腺手術のアプ

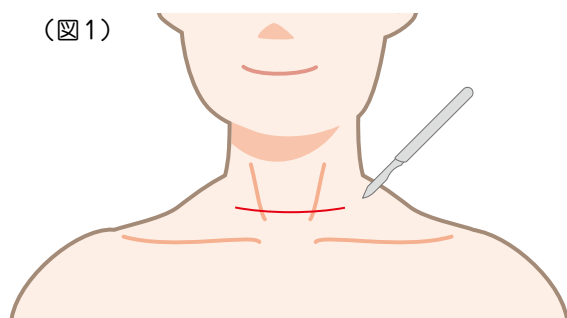
ローチの場所（傷ができる場所）は、脇の下、鎖骨の下、耳の後ろ、口の中などです。三田市民病院で導入する内視鏡下甲状腺手術は、鎖骨の下の2.5cmと頸部の0.5cmの傷から内視鏡や手術器具を挿入して行う手術です（図2）。開襟衣類を着用したときでも隠れる位置に小さい傷ができる程度です。

内視鏡下甲状腺手術は美容上のメリットがありますが、もちろん従来の手術と同等の治療成績も示されています。さらに、安全な手術でなければなりません。今回、同時に甲状腺術中神経モニタリングというシステムを導入し、反回神経という声帯を動かす神経の麻痺の回避に努めます。また、意図しない出血にすぐに対応しやすいことも、鎖骨の下からの内視鏡下甲状腺手術を選択した理由のひとつです。

最新の医療技術・医療機器の導入

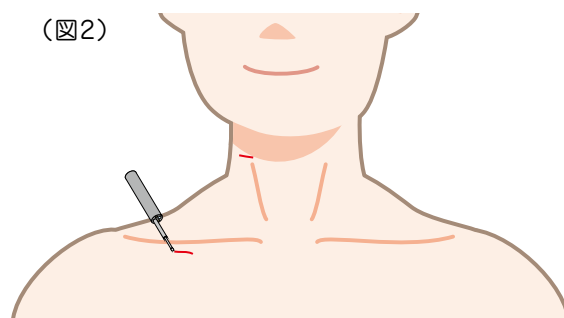
三田市民病院は、令和元年に良性疾患に関する施設基準を取得しました。良性疾患の内視鏡下甲状腺手術が軌道に乗れば、悪性腫瘍に関する施設基準も取得するようにします。疾患の種類、大きさ、患者さんの希望を考慮し、従来の手術か内視鏡下甲状腺手術かを選択します。最新の医療技術と医療機器を導入し、きれいで安全な手術を行います。

（図1）



従来の手術

（図2）



内視鏡下甲状腺手術

病棟紹介 救急重症病棟

救急重症病棟 課長 足立 康宏

当院は救急患者の受け入れを行う救急告示医療機関に指定されています。その中で、救急重症病棟は、平成16年秋に開設され丸15年が経過しました。

救急重症病棟は、地域住民の皆さんの病気やケガなど突然の発症による生命の危機的状況に対応するため、平日はもちろん、夜間や休日など救急外来と連携し24時間体制で緊急入院や重症患者さんの受け入れを行っている病棟です。

病床数は7床あり、「ハイケアユニット入院医療管理料1」を算定できる条件を備えています。ハイケアユニットの位置付けとしては、ICU（集中治療室）に準ずるもので、生命の危険が及ぶ可能性の高い重篤な疾患（心筋梗塞や心不全、くも膜下出血、消化管出血、交通事故等による重症外傷、敗血症など）の患者さんが入院されます。3階手術室横に位置し、緊急手術や長時間に及ぶ大手術後の患者

さんなども入院され、集中的で高度な治療や看護を提供しています。

令和2年1月現在、看護職員は18名（病棟看護師17名と看護補助者1名）で3交代勤務を行っています。当病棟は一般病棟とは違い、あらゆる年齢の方々や全ての診療科の患者さんを対象としているため、看護師には幅広い知識や技術とともに、迅速かつ的確な判断や対応が要求されます。また、生命の危機的状況にある患者さんやご家族の不安や思い、願いなどに寄り添い支援するため、看護の専門職として、また人としての優しさや人間性を育成し、患者さん・ご家族の立場や思いを最優先に考えた看護を常に提供できるようチーム一丸となって取り組んでいます。

これからも、地域住民の皆さんに安心していただけるよう、緊急治療体制の充実と治療・看護の質向上に努めていきたいと考えています。



病棟看護職員



引き継ぎ場面

専門職紹介

医療ソーシャルワーカー

・医療ソーシャルワーカー

医事企画課 課長補佐 澤 佳志彦

医療ソーシャルワーカーとは

医療ソーシャルワーカーとは、主に病院において「ご病気や怪我をされた患者さんやご家族が、地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、社会福祉の立場から、患者さんやご家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図る」専門職のことです。医療ソーシャルワーカーは社会福祉系大学等の専門教育を修了した後、病院等に從事しており、その多くが社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格を取得しております。

ご病気にともない、患者さんやご家族にさまざまな問題が発生することがあります。「介護が必要になったので介護保険などの社会保険制度について知りたい」、「自宅退院後の生活に不安がある」、「入院費の支払いが難しい」、「リハビリができる病院へ転院したい」といったご相談に応じ、社会福祉の立場から解決に向けて支援いたします。

具体的には、以下の業務を行っています。

1. 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助
2. 退院援助
3. 社会復帰援助
4. 受診・受療援助（他院への受診調整等）
5. 経済的問題の解決、調整援助
6. 地域活動（地域の関係機関との会議や研修等）



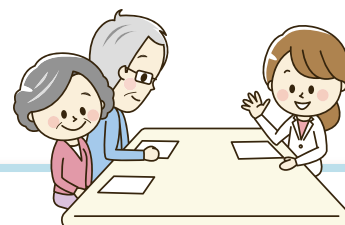
〔厚労省『医療ソーシャルワーカー業務指針』より〕

ご相談方法

医療ソーシャルワーカーに相談をご希望の方は、主治医か看護師にお申し出ください。

面談でのご相談の際は原則ご予約が必要です。

ご入院をされている患者さんにつきましては、各病棟の専任退院支援担当者（看護師等）と連携してご相談に応じます。



医療介護連携による支援

当院には3人の医療ソーシャルワーカーが在籍しております。患者さんやご家族が安心して療養していただくために、病院内の医師、看護師、リハビリ、薬剤師等の多職種はもちろん、地域のかかりつけ医をはじめ、訪問看護ステーションやケアマネジャーなどの医療介護関係機関とも連携し、チームで支援いたします。

病名の告知について

看護部患者支援リンクナース委員会では、患者さんの療養の場が地域・施設と変化する中で、継続的に一貫した看護が提供できることを目的に取り組んでいます。

在宅療養に向けて少しでも役立つ情報をお伝えできればと思い、全3回に渡ってテーマごとにご紹介させていただきます。2回目の今回は「病名の告知について」です。ご家族で話し合うきっかけにいただければ幸いです。

A 病名の「告知」をどのように考えますか？

B 例えば、癌の「告知」の場合、一昔前は、癌（がん）イコール死に直結する不治の病というイメージが強く、事実を伝えることで患者さんが希望を失い、治療の意欲がなくなるのではないかとわれがちでした。そのため「病名の告知」をためらうこともありました。しかし医療の進歩に伴い多くの病気では、早期発見、早期治療により完治を目指せるようになってきたことから「病名の告知」は一般的になりつつあります。

A 治療を行うときに病名の「告知」は必要なことですか？

B どんな治療でも、基本的には患者さん、ご家族の同意が必要となります。あくまでも治療は医療者が一方的に行うものではなく、事実をお伝えしご本人が主体的に考え、治療を選択できる時代になってきています。しかし、病気に対する不安から、伝えた瞬間にショックを受けて動揺される方もおられます。その場合はストレートに病名を伝えるのではなく、どこまで伝えるのか、いつ伝えるのかといった配慮が必要です。告知を受けることでご本人もご家族も今後の生活について具体的に考えることができます。

そして、治療の過程が過ぎた場合でも、症状緩和を専門とするホスピス病院では「告知」を前提としています。まずはご本人の思いと人生を考えることが大切です。

A 病名を「告知」するときに大切なことは？

B 病気になったと聞いてその周囲の方も動揺し、病名を聞いたご本人の反応を想像してご家族はそれに対応できるかどうか不安や恐怖を持たれることでしょう。しかし、先ずはご家族が患者さんの状況を受け止めることが大切です。感情的ではなく客観的にご本人への告知について考えることが大切です。ご家族から伝える心の準備ができないときは医師から伝えることもできます。又は看護師が同席することもできます。

当院では患者さんからの相談だけでなく、ご家族からの相談やサポートも受け付けています。

病気になる前から、病名の「告知」についてご家族で話し合う機会を持ってもらえたらと思います。

医師からのメッセージ

日々の診療に励む医師から、「すこやか」読者の皆さんへのメッセージをお届けします。



中村 晃

なかむら あきら

- 診療科 消化器内科
- 専門分野 消化器一般
- 資格
- 日本内科学会 指導医
- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本消化器病学会指導医・専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医

Message

平成7年の新病院開設時より当院に勤務しています。主に消化器内科一般の診療を行っていますが、金曜日午前では、総合内科初再診外来を担当しています。近隣の医療機関と連携を深め、円滑な診療が行える様に努力したいと思っています。



中山 真紀

なかやま まき

- 診療科 形成外科
- 専門分野 形成外科一般、眼瞼（まぶた）、創傷外科
- 資格
- 日本専門医機構認定形成外科専門医
- 日本創傷外科学会専門医
- 救急科専門医

Message

体表の腫瘍、変形、異常などに対して機能面だけでなく整容面にも配慮した手術を行っています。専門外来ではレーザーや創傷（キズ、傷あと）、まぶた疾患も積極的に診療しております。お気軽にご相談ください。

コメディカル

新しい放射線がん治療（内用療法）

放射線科 菅谷 昌史

当院では、平成30年8月より、「ゾーフィゴ®静注」という治療薬を導入しています。

この薬は、骨に転移した（骨転移）、去勢抵抗性の前立腺がんの治療に使われます。

ゾーフィゴ®には、α線と呼ばれる放射線を出す「ラジウム223」が含まれていて、静脈からの注射で体内に投与され、体の内側から放射線を出して、がんの治療を行います。



画像引用：バイエル薬品株式会社 HP より

ゾーフィゴ®は、骨転移など骨の代謝が活発になっているところに集まりやすいため、他の臓器にはほとんど影響を与えません。

骨転移に集まった「ラジウム223」から出る放射線で、がん細胞を破壊し、増殖を抑えて治療していきます。

令和2年1月現在、この周辺で行っているのは、当院だけです。

お問い合わせのある方は、当院放射線科までご連絡ください。

近隣医療機関のご紹介

市民病院は地域医療連携を推進します。
かかりつけ医を持ちましょう！

あおぞらクリニック

院長：佐埜 勇



あおぞら会は医療・福祉を通じ全ての人が少しでも幸福に暮らせることを第一理念に掲げ診療しております。

私たちは来院されるすべての方、一人ひとりに寄り添い心を添えることを大切にしています。診療は内視鏡をはじめとする消化器内科・外科・一般内科・整形外科（土曜日・日曜日、奇数週火曜日午後）および、在宅訪問診療をおこなっております。病気だけでなく身

体・心に寄り添う全人的医療を目指しております。

あおぞらで出会えたご縁に感謝し、共に今生きる喜びを大切に人生を輝かせましょう！

所在地：〒669-1354 三田市大畑字清水357-1

電話：079-560-0325

診療科目：胃腸科、外科、こう門科

休診日：水曜、土曜（午後）、日曜（午後）

祝日午前・午後診療のため、第2・第4木曜日を休診させていただきます。

HP：「三田市 あおぞらクリニック」で検索してください

診療時間	午前 9:00 ~ 12:00、午後 4:00 ~ 7:00						
	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	×	○	○	○	○
午後	○	○	×	○	○	×	×



新任 医師紹介

当院では2月より新しく医師を迎えました。より一層日々の診療に力を入れてまいります。



耳鼻いんこう科 医師

木村 哲平

きむら てつへい

2月から赴任することとなりました。これまでは、良性腫瘍やcommon diseaseを中心に診療経験を積んでおりました。これからは更に幅広い分野に目を向けて対応したいと思っております。よろしくお願いします。

出身地：兵庫県

編集後記

春分（しゅんぶん）は、よく昼の長さや夜の長さがほぼ等しくなるとされていますが、実際には昼の方が14分ほど長い。日本では3月20日または3月21日になることが多く、春分を過ぎれば、草木の芽吹きや風も心地良く感じられるようになるでしょう。

すこやか（第214号）
令和2年3月発行

【編集・発行】
三田市民病院
学術広報推進委員会



三田市民病院

〒669-1321 三田市けやき台3丁目1番地1
TEL.079-565-8000（代表）
<https://www.hospital.sanda.hyogo.jp/>